

令和5年矢巾町議会定例会3月会議

一般質問議員と質問事項一覧表

受付番号	質問議員	質問事項	答弁者
1	5番 村松 信一	1. 令和5年度施政方針について	町長・教育長・ 農業委員会会長
		2. 多面的機能支払交付金について	町 長
		3. 教育行政方針について	教 育 長
2	10番 昆 秀一	1. 投票率向上を目指す	選挙管理委員会委員長
		2. 貧困対策について	町長・教育長
		3. 次世代を継ぐ若者への支援を	町長・教育長
		4. 認知症でも安心して暮らせるまちづくり	町 長
3	3番 小笠原 佳子	1. 妊産婦医療費助成事業について	町 長
		2. 高齢者の支え合い、助け合う地域社会の構築について	町 長
		3. 所有者不明土地の現状と活用について	町 長
4	1番 藤原 信悦	1. 一般国道4号盛岡南道路事業化に伴う町道中央1号線の整備等について	町 長
		2. 産業振興センターについて	町 長
5	9番 赤丸 秀雄	1. 町長の施政方針演述内容について	町 長
		2. 教育長の教育行政方針内容について	教 育 長
6	17番 高橋 七郎	1. 町政課題について	町 長
		2. 町政への貢献に対する表彰について	町 長
		3. 選挙制度等について	選挙管理委員会委員長
7	14番 小川 文子	1. 保育政策について	教 育 長
		2. 物価高騰対策について	町 長
		3. 高区配水塔の建設計画とやまゆりハウスの安全対策について	町 長
		4. パートナーシップ制度の導入について	町長・教育長
8	13番 川村 よし子	1. 国民健康保険制度について	町 長
		2. 非正規雇用労働者の処遇について	町 長
		3. 学校給食費について	教 育 長
9	11番 藤原 梅昭	1. 「快適性と安全性を高めるまちづくり」について	町長・教育長
		2. 産業の活力を高めるまちづくりについて	町 長
		3. 安心と信頼が寄せられる行政経営について	町 長
10	4番 谷上 知子	1. 宅地開発について	町 長
		2. 子育て支援について	町長・教育長
		3. 中央1号線の県道昇格に向けた取り組みについて	町 長
計	10名 30件	【一般質問実施日】 令和5年3月3日(金)午前10時 ※受付No.1～4 令和5年3月6日(月)午前10時 ※受付No.5～8 令和5年3月7日(火)午前10時 ※受付No.9～10	町 長 24件 教 育 長 10件 農 業 委 員 会 会 長 1件 選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長 2件

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>1</u>	令和5年 2月20日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>5番</u>	村松 信一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 令和5年度施政方針について (答弁者) 町長、教育長、農業委員会会長</p> <p>令和5年度の税金について例年と同程度の水準を維持できる見込みという昨年12月会議での答弁のとおり、令和5年度予算額は前年並みとなっておりますが、令和5年度施政方針によれば、具体的で踏み込んだ内容の施策が多くなっております。更に詳細を確認致したく、令和5年度の事務事業について以下伺います。</p> <p>① 子ども・子育て支援の推進について、12月会議では国の新たな施策の動向を見ながら本町の対応を考えたいとのことであったが、令和5年度における本町独自の施策はあるか。</p> <p>② 高齢社会における保健、福祉、介護について、基本的な対応は施策に盛り込まれているが、今後さらに重点的に取り組む必要があると捉えている事務事業は何か。</p> <p>③ 雇用の創出こそが地域活性化の起爆剤であるとして、企業誘致を推進し女性や若者の雇用の創出を目指すところがあるが、企業誘致も順調に進んでいる中、少子高齢化による労働人口の減少や県内への大企業進出等で働き手の急激な不足が懸念される。働く場の確保以上に働き手の確保に対する対策が必要になると考えるがどうか。</p> <p>④ 農商工の振興について、本町の特産品開発のため企業の協力等により様々な商品を開発し試験的な販売を行って</p>

いるが、今のところヒット性の商品に恵まれていないと思われる。特産品開発の発想を変え、当地で昭和の時代から好評だった食べ物やおやつ類を見直し、現代的な味付けや見栄えにして特産品とすることを検討してはどうか。

- ⑤ 空き家に付随した農地の別段面積要件が撤廃されるが、農地がわずかでもあれば農家として登録されるのか。また市街化調整区域内の農地付き空き家の所有者が空き家のみを売却することはできるか。
- ⑥ DXの推進について、町ホームページに掲載した記事を町民個人の携帯端末に配信したり、町民から町へ情報を提供したりすることを可能とする町民向け携帯端末アプリを開発するということだが、行政運営に対しどのような効果を期待しているか。
- ⑦ 令和5年度施政方針に掲げた施策はどれも欠かすことの出来ない事業であるが、特筆すべき重点事務事業は何か。
- ⑧ マイナンバーカードを利用した各種行政サービス拡大のため、カード発行の促進に努めておりますが、本町の発行状況はどうか。またカードのさらなる利便性向上を図るため、民間も含めた独自の利活用の拡大としてどのような事を考えているか。

以上8点について伺う

質問2

(質問事項) 多面的機能支払交付金について

(答弁者) 町長

本町は農業地域を中心に農地周りの水路や農道等の長寿命化と水質、土壌等の保全活動他に取り組んでおります。この事業は、平成19年から5年間は農地・水・環境保全向上として町内8組織、平成24年から6年間は農地・水保全管理支払交付金事業として11組織、平成30年からは多面的機能支払交付金事業として29組織が取り組んでいる、国50%、県25%、矢巾町25%負担の交付金による事業であります。岩手県多面的機能支払推進協議会のホームページには、工事

を外注する場合、「活動組織における工事の契約方法や契約書（請書）の例文は市町村の規則等に従って作成する」とあり、参考とするものがない場合には、岩手県多面的機能支払推進協議会の例文を使用することとなっております。

このことから工事契約に係る本町の考えを伺います。

- ① 多面的機能支払交付金事業における工事請負契約について本町の規則等はあるか。
- ② 整備された圃場近辺の道路は農業道路として機能しているが、本町の場合、町道となっている。農道であれば多面的機能支払交付金事業による舗装が可能であるが、本町では町道であるため多面的機能支払交付金事業による舗装はできない。市街化調整区域には未舗装道がかなり残っており、市街化区域の町道とは別に舗装を計画すべきと考えるがどうか。

以上2点について伺う。

質問3

(質問事項) 教育行政方針について

(答弁者) 教育長

令和5年度教育行政方針について伺います。

- ① 子ども・子育て支援として、妊娠期から子育て期全般にわたる切れ目のない支援を「子育て支援ネットワーク」が一体となって進めるとあるが、子育て支援ネットワークの担い手や地域の役割について現在の状況を伺う。
- ② 保育料無償化の対象者拡大等、子育て世帯の負担軽減を図る計画の具体的な内容及び実施時期について、また保育体制強化の具体的な内容について伺う。
- ③ 子ども達の育ちを就学前からしっかりと支援し、小学校就学へ切れ目なく繋げ、社会性を涵養し、多様な学習機会を通じて生涯にわたり学習する意欲を育む等々があるが、それぞれの具体的な施策を伺う。
- ④ 「確かな学力の育成」のために目指している「令和の日

本型学校教育」とはどのようなものか。また「個別最適な学び」「協働的な学び」の内容を伺う。

⑤ 児童館では「遊び」や「生活」の支援を行うとあるが、どのように支援を行うのか。

⑥ 令和5年度教育行政方針に掲げた事務事業のなかで、本町独自の施策として取り組む特筆すべき事務事業はあるか。

以上6点について伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>2</u>	令和5年 2月20日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>10番</u>	昆 秀 一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 投票率向上を目指す (答弁者) 選挙管理委員会委員長</p> <p>今年4月に統一地方選挙が予定されている。だが、最近の選挙は投票率の低下が顕著である。投票率の低下の要因はさまざま考えられるが、選挙の関心が薄らいでいるのは、政治に対する興味が失われている証拠でもある。特にも無投票などは避けなければならない。</p> <p>本来政治は我々の生活に深い関わりのあるものであり、選挙は地域の代表者を決める大事なものである。最近の若い世代は政治に無関心であり、そのことによって民主主義が形骸化する可能性すらある。そういう現状を踏まえた上で、どのような対策を行っていかうと考えているのか、以下伺う。</p> <p>① 今までの選挙の投票率についてどう捉え、改善していかうとしているのか。 ② 投票所に行きたいけれど行けない人のために移動期日前投票所の設営を。 ③ 移動が困難な方への投票所までの移動支援としてタクシーの無料化を。 ④ 投票率アップのための選挙啓発活動についてどのように考え、行っているのか。 ⑤ 学校で主権者教育にどう取り組んでいて、今後投票率向上を目指すのか。</p>

<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 貧困対策について (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>厚生労働省の調査によれば、日本の子どもの貧困率は平成28年13.9%さらに一人親家庭の貧困率は50.8%と、先進国の中でも最悪の水準だと言われている。さらに親の就労など経済的理由つまり貧困により追い詰められた結果、親が虐待や育児放棄に至るケースも多々あるようだ。</p> <p>子どもの貧困問題は、当事者である子どもだけではなく、社会全体に大きな損失を与える。貧困状態で育った子どもは将来納税者にならず社会保障を受ける側になる可能性が高く、そのことによる国の損失は約40兆円以上になると言われている。これはその子どもたちの責任ではなく、私たち大人みんなの責任ではないのか。このように貧困は決して他人事ではないことから、以下伺う。</p> <p>① 子どもの貧困の問題は連鎖しやすいことにある。それは虐待などにより愛着の形成が不十分であることに原因があるとされているが、町としてはどのような支援をしているのか。</p> <p>② 教育現場では、子どもの貧困の現状把握にどう取り組んでいるか。</p> <p>③ 子どもの貧困は子どもといっしょに暮らす大人の所得が低いということによるものである。そのような子どもといっしょに暮らす大人の実態をどう捉えて支援に結び付けようとしているのか。</p> <p>④ 新型コロナウイルス感染症や物価高の影響を受けて、家計が急激に悪化した世帯への支援が足りていないのではないか。町としてはその現状をどう受け止めているのか。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 次世代を継ぐ若者への支援を (答 弁 者) 町長、教育長</p>

少子化の急速な進展や地域の絆の弱まりといった社会状況の変化、核家族や親の就労形態の多様化、安心して遊べる場や体験ふれあいの機会の減少などによって、子ども・若者の育成環境を取り巻く状況は刻々と変化していて、このコロナ禍においてはますます状況は悪化しているように思う。また、困難を抱える子どもたちや若者たちの悩みは複合的かつ複雑化していて、一つの分野に留まらない総合的な相談・支援体制が求められる。

このような状況から、本町の次世代を継ぐ若者への支援について、以下伺う。

- ① 本町では国の「次世代育成支援対策推進法」に基づき、「子ども・子育て支援事業計画」を策定しているが、計画の定期的な点検・評価をどう行い、計画の見直しは必要なかったのか。
- ② 次世代を担う若者と世代や立場を超えて語り合う場を設けることは必須であると考えているが、町としての考えは。
- ③ 町の情報について小中学校などの若者に伝えていくことは重要であり、町のことをよく知ってもらうことが必要であると考えているが、町の考えとその伝え方をどう行っているのか。

質問 4

(質問事項) 認知症でも安心して暮らせるまちづくり
(答 弁 者) 町 長

日本人の平均寿命は世界でもトップレベルである。だが、寿命だけ伸びても健康でなければ仕方がない。つまり、健康寿命の延伸こそが問題となる。健康であるためには疾病の予防と早期発見早期治療が大前提としてあるし、長寿になれば認知症になる可能性も高くなっていく。2012年の認知症患者数は462万人と65歳以上の7人に1人となっているが、2025年には約700万人、5人に1人になると見込まれている。そして、85歳では約半数が、95歳では約8割の人が認知症になると考えられている。今まさに超高齢化社会を迎えた日本

では誰もが認知症となるか、認知症患者にかかわる可能性がある。他人事ではない。

そこで、認知症になったとしても安心して暮らせるまちにすることが最大の課題であることから、以下伺う。

- ① 認知症についての理解をどのように周知しているのか。
- ② 認知症に関する周囲の理解には、小中学校における教育も必要と考えるが、現状と今後の方針は。
- ③ 認知症を予防、早期発見早期治療するためにまちとしてはどのようなことを行っているのか。
- ④ 矢巾町の認知症支援ネットワーク連絡会ではどのようなことが話し合われ、実践に結び付いているのか。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>3</u>	令和5年 2月20日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>3番</u>	小笠原 佳子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 妊産婦医療費助成事業について (答弁者) 町長</p> <p>妊娠中や出産時にかかった医療費のうちで、健康保険が適用されるものについて、自己負担分が助成される制度が妊産婦医療費助成制度です。</p> <p>近年では、様々な社会的要因で、女性の出産年齢が高くなる傾向にあり、いわゆる「ハイリスク妊娠」の割合が増えています。妊娠高血圧や妊娠糖尿病などのリスクもあります。</p> <p>当然のことながら、こうした「ハイリスク妊娠」は胎児の育成にも影響をします。一方で、厚生労働省は、妊娠・出産・産後の不安について調査をされ、その中で、「妊娠中に経済的な不安があった」という方が15.7%（令和2年こども家庭局）となっています。</p> <p>経済的な格差のために、また今、コロナ禍の中で、胎児の生育や母体への悪影響があってはならないと考えるものです。</p> <p>母体の健康を守り、また経済的な格差によらずに、不安なく健やかに新しい命を育くめるこうした妊産婦医療費助成制度は、切れ目ない子育て支援のスタート、要となる制度であります。</p> <p>岩手県では全県で実施され素晴らしい制度ですが、市町村により自己負担額にばらつきがあることから以下伺います。</p> <p>① 給付件数と金額の推移について伺います。</p>

	<p>② 令和5年度岩手県一般会計当初予算（案）では子ども、妊産婦医療助成費の拡充をするようですが当町での拡充の考えについて伺います。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 高齢者の支え合い、助け合う地域社会の構築について (答弁者) 町 長</p> <p>高齢者人口は、2025年には3,677万人に達し、その後も高齢者人口は増加傾向が続き、2042年に3,935万人でピークを迎えます。</p> <p>社会は高齢化と核家族化により、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯が増加しており、電球交換やゴミ出しなど、高齢者の日常を支える取り組みがますます重要になります。</p> <p>そこで、支え合い助け合う地域社会の構築について、以下伺います。</p> <p>① 高齢者が介護支援、ボランティア活動等を通じて、社会参加、地域貢献を行うとともに、高齢者自身の健康増進も図っていくことを積極的に支援するべきと思うが、当町での取り組み状況について伺います。</p> <p>② 町長の施政方針にケアリングコミュニティ（共に生き、相互に支えあうことができる地域）の実現を目指すとあります。このことについて具体的にどのような新しい取り組みをされるのか伺います。</p> <p>③ 介護予防を目的とした65歳以上の高齢者が地域のサロン、会食会、外出の補助、介護施設等でボランティア活動を行った場合に自治体から「ポイント」を付与するボランティアポイントの導入についての考えを伺います。</p>

質問 3

(質問事項) 所有者不明土地の現状と活用について
(答弁者) 町 長

所有者不明となる土地が全国的に増えてきております。所有者不明土地問題研究会によりますと、2016年時点で九州本島の面積を上回る、約410万ヘクタールの所有者不明の土地があると推計されています。

昨年4月、改正所有者不明土地利用円滑化特別措置法、いわゆる改正特措法が成立しました。

今回の改正は、所有者不明土地の利活用を大きく進め、アイデア次第で地域福利や防災に役立てることができるようになり、地域住民の要望を生かした改正特措法の運用が求められます。

何といたっても、市町村長が防災工事などを代執行できる制度も創設され、さらに市町村が所有者不明土地対策協議会を設置し、利活用のための計画を作成できるようになりました。地域のアイデアを存分に生かし、所有者不明土地を積極的に有効活用すべきと考え、以下伺います。

- ① 所有者が不明とされる林地や農地、宅地についての現状と課題について伺います。
- ② 所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法の概要と、本町として今後の活用について伺います。
- ③ 所有者不明土地等の固定資産税徴収の課題について伺います。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 4	令和5年 2月20日	午前・ 午後 11時45分
議席番号 1番	藤原 信悦	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 一般国道4号盛岡南道路事業化に伴う町道中央1号線の整備等について (答弁者) 町長</p> <p>令和4年度より事業化が進められている一般国道4号盛岡南道路の事業目的の一つに、三次救急医療機関(岩手医科大学附属病院)への「円滑な搬送経路」の確保がある。</p> <p>そのため、盛岡南道路は矢巾東小学校北側地点で町道中央1号線と平面交差し、町道中央1号線も「円滑な搬送経路」としての役割を担うことになるが、現状のままでは以下の問題があると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none">・盛岡南道路の開通により、盛岡西部、盛南地区や滝沢・雫石方面からの通行量が増加し、藤沢地区以南の国道4号やこれに並走する町道中央1号線の交通量は増加すると見込まれる。・また、東徳田・間野々地区の国道4号沿いの市街化調整区域は、現在、地区計画による企業誘致が進められており、今後、国道4号、町道中央1号線の通行量増加が見込まれる。・附属病院開業時の車両通行量調査(令和元年6月、10月)では、開院後の南北方向での増加が顕著(資料1)。盛岡南道路開通はこの増加を加速すると見込まれる。・町道中央1号線は現在、片側1車線(附属病院前は2車線)で、右折レーンがある交差点は限られており、増加する通行量に対応できるのか疑問。

	<p>・町道中央1号線は都南病院前の交差点で国道4号に接続するが、この交差点は現在でも渋滞が常態化しており、町道中央1号線の通行にも影響するのでないか。 以上の問題点を踏まえ、以下、伺う。</p> <p>① 岩手医科大学附属病院までの「円滑な搬送経路」として、現状の町道中央1号線は、今後増加すると見込まれる通行量に対応できるとお考えか。また、整備が必要となる場合は、どのように整備すべきとお考えか伺う。</p> <p>② 国道4号都南病院前（都南中央橋口）交差点への円滑な接続を図るため、町道中央1号線につながる市道部分を含めて県道に昇格させ、一体的な整備をする必要があるのではないかと思うがお考えを伺う。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 産業振興センターについて (答弁者) 町長</p> <p>産業振興については、これまで何度か一般質問でも取り上げ、都度、回答はいただきますが、その後の具体的な展開や成果等がみえず、取り組み姿勢に不安を抱いておりました。 しかし、過日、町長の令和5年度施政方針の一つに「産業の活性化」が挙げられ、昨年来から話があった「産業振興センター設置によるオール矢巾での産業活性化」が、今度こそ実現されるものと期待し、以下について伺う。</p> <p>① 産業振興センターの立ち上げは年度内のいつ頃を予定されているのか</p> <p>② 同センターの産業振興における位置づけや具体的な役割をどのようにお考えか。また、産学官等の外部機関との関係はどのように取られるお考えか。</p> <p>③ 産業振興の推進には、業務に関する知識や実務能力が求められると考えるが、これらの要件を満たす人材（中小企業診断士、会計士・税理士、経営経験者等々）をどのよう</p>

に確保しようとお考えか。新規採用やコンサルタント会社等との契約により指導を仰ぐ必要があると思うがお考えを伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 5	令和5年 2月20日	午前 ・午後 4時30分
議席番号 9番	赤丸秀雄	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 町長の施政方針演述内容について (答弁者) 町長</p> <p>町長の施政方針演述を傾聴し、以下の項目について具体内容を伺う。</p> <p>① 町営住宅（高田、矢巾）建替えることですが、今回建替え以外の方法による手法を検討するとともに述べております。具体的にどのような方法を考えているか伺う。</p> <p>② 通学路の安全確保について、歩道整備計画を述べておりましたが、時間と経費が掛かることから、まずは小中学校の通学路上の防犯灯設置を早急に行う必要性を感じるものであり、その考えがないか伺う。</p> <p>③ 高齢者の医療、介護、健康診査等の把握や社会参加を含むフレイル予防を視野に入れた疾病予防と重症化予防の取り組みを述べています。そこで『エン（縁）ジョイやばネットワーク』の展開は、大変良い施策であり、地元公民館を活用して、運動・しゃべる・笑う・食べることは高齢者の健康維持の基本であります。是非、町内全行政区に活動展開すべきと考えますがいかがでしょうか。</p> <p>④ 地域の活性化や防災への取り組みに「自助・共助・公助」の他に「近助」が重要であると何度も強調されておりました。私もこれを町内でやれば本当に良いと考えますが、現実には難しく厳しい状況であり、理想であると思います。「近助」を進めるのであれば昔の「結い」精神を復活させ</p>

	<p>る土台作りが何よりも必要と考えます。 町長はどのような取り組みから「近助」を推し薦める考 えなのか伺う。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 教育長の教育行政方針内容について (答 弁 者) 教育長</p> <p>教育長の教育行政方針を傾聴し、以下の内容を伺う。</p> <p>① 現在3地区で住宅地開発が進められているが、小学校の 学区再編検討結果はいつ公表予定であるか。 また町内小学校の老朽化校舎建替えや20年以上先を見据 えた児童数動向を踏まえることも考慮する必要があると 思うが、どのような視点で考えをまとめたのか伺う</p> <p>② 今回教育行政方針で教員等の長時間労働改善について 触れていないが、教員にゆとりがなければ「確かな学力」 「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」にも支障をきた すと思われます。 そのことをどのように捉えて、教育行政方針を述べられ たのか具体的に説明願いたい。</p> <p>③ 給付型奨学金事業(制度)の導入は2年目となりますが、 定住化や活性化、また税増収など町のメリットにつながる ことが期待されます。財務状況が厳しいですが是非、事業 拡大を要望したいと思うがそのことの考えを伺う。 また私案として、卒業後一定期間矢巾町に住所を置き、 仕事に従事された方は条件付き給付型奨学金制度適用と するなど、拡大提案したいが見解を伺う。</p> <p>④ 児童・生徒のいじめ、虐待、ヤングケアラーの実態把握 の更なる強化を図り対応願いたい。その取り組む姿勢と決 意などを具体的に伺う。 また、該当者の対応には相談が一番重要と言われます。 町内関係機関との連携の重要性をどのように捉えている か伺う。</p>

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 6	令和5年 2月21日	午前 ・午後 2時00分
議席番号 17番	高橋七郎	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 町政課題について (答弁者) 町長</p> <p>① 第7次総合計画後期基本計画においては、「快適性と安全性を高めるまちづくり」の分野で消防・救急体制の充実、常備消防の強化と消防団員の減少防止について「令和6年3月31日までに国が進めている消防広域化促進の流れを勘案しながら、矢巾分署の増強を行ないます。また、消防団員減少防止のために、学生消防団員制度や企業消防団員制度の導入、機能別団員の充実、福利厚生の実施、消防団の訓練、消防行事の在り方の改革等に取り組みます。」とありますが、残すところ後1年となるなか、現状と課題を伺う。</p> <p>② 町消防団の消防自動車更新事業は令和元年度まで進めてきましたが、残すところ後2台となり、令和3年度予算の事前質問では新型コロナウイルス感染症により財政事情への影響が不透明であること及び現有車両の状態を勘案し、消防団と協議の上、更新を見送り、令和4年度の更新も見送られましたが、令和5年度の予算案に計上されたところである。残すところ後1台となり、更新予定の地元消防団員及び消防後援会では早期実現を要望していることから、どの様に更新を進めるのか伺う。</p> <p>③ 矢巾町中心街エリアにおいてはやはばwi-fiを申込しても、満杯のため受付にならないケースがあると聞いたことから機器を増設すべきと思うが、現状と課題を伺う。</p>

	<p>④ 人材育成事業、国際交流については施政方針で再開する意向が示され、また令和5年度予算案では補助金も計上し提案されたところである。友好都市フリモントとの中高生の相互交流を通じて友好関係を深めるとの方針であるが、3年ぶりの交流であることから高校生の人数を多くする考えはないか。また、具体的にどの様に推進するのか伺う。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 町政への貢献に対する表彰について (答弁者) 町長</p> <p>町民のほか、町内の事業者、団体の中には、これまで様々な分野で町政発展や町民福祉の向上に寄与し貢献した者、団体がある。また今後も新たに現れることを期待するところである。</p> <p>町では矢巾町表彰規定により表彰の基準を定めているが、この規定に定める委員や団体のほかにも、その功績をたたえ表彰に値する事例があると思われる。貢献した者、団体に対して賞賛し奨励することで、さら町民福祉の向上に好循環をもたらすと考える。</p> <p>以上のことから、表彰規定の見直しや、表彰規定に該当せずとも、町民福祉の向上に寄与し貢献した者や団体に関し、町として評価しその功績をたたえる考えはないか伺う。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 選挙制度等について (答弁者) 選挙管理委員会委員長</p> <p>今年9月には県知事、県議会議員選挙及び4月23日には矢巾町長、町議会議員選挙が予定されていることから以下伺う。</p> <p>① 昨年、第26回参議院議員通常選挙では、矢幅駅東口に臨時に期日前投票所の増設を3日間行ったが、成果と課題はどうだったか。</p>

また、今年9月と4月23日予定の選挙でも同様の増設を設けるのか伺う。

- ② 矢巾町長、町議会議員選挙の平成23年投票率は58.38%、平成27年投票率は67.52%、平成31年投票率は54.62%であった。平成27年は町長選があり10～13%高いが、町長選が無投票となると投票率低下傾向になっている。4月23日に行う選挙について、選挙管理委員会では投票率の向上対策をどの様に推進するのか伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 7	令和5年 2月22日	午前・ 午後 10時00分
議席番号14番	小川文子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 保育政策について (答弁者) 教育長</p> <p>少子化対策、子育て支援を進めるために保育環境を充実させることは重要であることから以下伺う。</p> <p>① 来年度から県が市町村と共同で第2子以降の3歳児未満の保育料を無償化し、在宅で育児する世帯に一人当たり月額で1万円支給する方針を示した。本町ではどのように取り組むか伺う。</p> <p>② 今後、インクルーシブ保育が求められると思うがどのような体制で進める考えか伺う。</p> <p>③ 煙山保育園を唯一の町立保育園として残したのは、障がいを持った子どもに対応できること、町内の保育の質を向上させていくことであったと聞いている。以前は町内保育士が一緒になった研修や園長会議が行われていたが現状と今後の取り組みを伺う。</p> <p>④ 保育士不足や過重労働、低賃金など種々の社会問題が発生しているが、民間保育士確保のためにも、さらなる経済支援ができないか伺う。</p>
質問2	<p>(質問事項) 物価高騰対策について (答弁者) 町長</p>

	<p>公共料金の相次ぐ値上げや物価高騰で、町内の農業や商工業者、消費者の生活が困難な状況に陥っていることから以下伺う。</p> <p>① 現在取り組まれている農商工業者への経済支援の状況と課題を伺う。</p> <p>② 畜産農家は飼料の高騰により廃業する件数が増加しており、緊急の支援が求められている。今後の支援策を伺う。</p> <p>③ 温暖化対策に配慮した住宅リフォーム事業を導入している自治体では、個人がリフォームに取り組む契機となり好評を得ている。このことは受注する商工業事業者への支援につながることから、本町でも取り組む考えがないか伺う。</p> <p>④ フードバンクなどの取り組みはどのような状況となっているか伺う。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 高区配水塔の建設計画とやまゆりハウスの安全対策について (答弁者) 町長</p> <p>昨年に引き続き高区配水塔の廃止と新たな建設計画(4億8千万円)が提案されたことから以下伺う。</p> <p>① 平成25年の大雨被害の後、上部に県が3基の治山ダムを建設して被害防止に取り組んだが、今年度中にその評価が示されることになっている。本建設計画との整合性はどうか伺う。</p> <p>② 高区配水塔から水道水の供給を受けている世帯数および1日あたりの給水量を伺う。</p> <p>③ 西部浄水場から高区配水塔分の世帯に給水できないか伺う。</p> <p>④ 温泉施設であるやまゆりハウスの安全対策はどのように考えているか伺う。</p>

質問 4

(質問事項) パートナーシップ制度の導入について
(答 弁 者) 町長、教育長

- ① 町長は所信表明演述でパートナーシップ制度の導入について述べられた。多様性を尊重した社会は、いわゆるマイノリティーの方々をはじめ多くの人々が生きやすい社会であり、近年マスコミで当事者の声が報じられる機会が増えたことも国民の意識の醸成が進んだ一因と思われる。
県内では一関市は条例で、盛岡市は要綱で同制度の導入を決定している。本町も進めることを期待するが、どのような方法により進めるか、また町民の理解を深める説明はどのようになされるか伺う。
- ② 学校教育で多様性を重んじる教育がどのように進められているか伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 8	令和5年 2月22日	午前・ 午後 10時15分
議席番号13番	川村よし子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 国民健康保険制度について (答弁者) 町長</p> <p>国では43兆円の軍事費が閣議決定しました。大軍拡の財源として、社会保障のいっそうの削減や、広く国民の方に対し増税となることが危惧されます。「消費税が未来永劫10%のままで日本の財源が持つとは思えない」「消費税率の引き上げについて考えていく必要がある」との意見も耳にします。果てしない軍拡予算中心では国民の幸福追求権や憲法25条をないがしろにする政治であり、弱い者の負担増が危惧される国民健康保険制度を改善させていくため、以下伺います。</p> <p>① 低所得者層の激変緩和措置は考慮されている予算ですが、電気・ガス料金をはじめ食料費等の相次ぐ値上げで町民の生活は切り詰められ、苦しい経済状況が地域経済にも大きく影響してくると考える。中小事業者も加入する協会けんぽと比較し高すぎる国民健康保険税をどう考えるか。</p> <p>② 令和4年度から子どもの均等割半額補助を開始しているが、対象子ども数と世帯数はどのくらいか。町として半額助成し全額免除できない理由を常に「交付金の減額になるため一般会計からの法定外繰り入れはできない」と答弁されているが、全額免除した場合の交付金がどの程度減額になると試算しているか。</p> <p>③ 短期保険証の発行が年間40数件あるが、近隣の市町では</p>

	<p>短期証の発行を取りやめている自治体が出てきている。当町も命や暮らしを守る立場から短期証発行を中止するべきでは。</p> <p>④ 短期保険証により窓口で滞納保険料を支払い改善したケースは年間どれほどか。福祉課等の連携を図り滞納解決したケースはどれほどあり、具体的にどう取り組んだか。</p> <p>⑤ 国は、自治体に対し「保険者努力支援制度を導入」してきているが町の対応はどのような分野で取り組んでいるか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 非正規雇用労働者の処遇について (答 弁 者) 町 長</p> <p>地方自治体の非正規職員、いわゆる会計年度任用職員の処遇は、「官製ワーキングプア」と指摘され、国と自治体の無責任な働かせ方に対する雇用のあり方が社会問題化しています。以下3点伺います。</p> <p>① 地方自治体法の改正により2020年度から期末手当が支給できることになりましたが、期末手当の相当額を給与の引き下げで行っているとの話も耳にする中、当町の状況はどうか。</p> <p>② 自治労連が行ったアンケートの中で、会計年度任用職員の賃金が低く物価高騰には対応できない賃金となっているとのことだが、改善できないか。町として賃金引き上げの考えは。</p> <p>③ 2021年7月の全国アンケート結果では「正職員と変わらないくらい勤務しているが給料が安い」「更新のたびに不安になる」との声が寄せられているが、当町ではどう認識しているか。特に保育現場ではどうか。</p>

質問 3

(質問事項) 学校給食費について

(答 弁 者) 教育長

小中学校給食は、教育無償化の中で大きく取り組み始められてきています。昨年12月末で全国自治体254が小中学校の児童生徒の給食費の無償化を開始してきています。東京都・千葉県・大阪市と広がっており、岩手県内でも徐々に無償化や補助の流れが広がってきています。

- ① 施政方針でも述べているが、第3子の給食費の無償化開始になるが、3人子供がいる保護者は、限られるので全児童生徒の給食費無償化を求めるがどうか。
- ② 学校給食費無償化をホームページ等で大きく発信し、日本一の子育て支援とする施策の展開を求めるがどうか。
- ③ 給食センター運営事業が民営化になり1年が経過しようとしているが地産地消率を高める努力はどう取り組まれているか。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>9</u>	令和5年 2月22日	午前・ 午後 10時55分
議席番号 <u>11</u> 番	藤原梅昭	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 「快適性と安全性を高めるまちづくり」について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>今年は関東大震災から100年、1・17阪神・淡路大震災から28年、3・11東日本大震災から12年、8・9ゲリラ豪雨から9年になろうとしている中、2月6日トルコ南部・隣国シリアにて、大地震が発生した。2週間経った20日で捜索は打ち切られましたが、生存可能ラインの72時間(3日)をはるかに超えた、200時間以上経ってからも救助されました。</p> <p>死者・行方不明者は東日本大震災の2万2,000人を倍以上上回り、死者だけでも5万人近く出ている。</p> <p>改めてお亡くなりになられた方へは哀悼の意を、被災者にはお見舞い申し上げます。</p> <p>ちなみに関東大震災の死者行方不明者は、過去100年で最も多く、10万5,000人で要因は火災が9割以上だった。</p> <p>国内では、南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝沖の巨大地震津波の発生が想定されている。</p> <p>災害は他にも暴風雨、大雪、火山噴火等の自然災害、更にロシアによるウクライナ侵攻開始から1年、中国・北朝鮮の日本周辺への再三の軍事挑発と、世界の安全が増々脅かされてきている。</p> <p>また、人為的なミスが起因の事故による被害も絶えず、社会問題となっている。</p>

	<p>そんな中「安全安心なまちづくり」の観点から、対応について以下伺う。</p> <p>① トルコは親日国であり、東日本大震災の際も医療チームの派遣や義援金を通して寄り添ってくれた。 岩手医大は医療チームを派遣されたようですが、当町としての支援状況について伺う。</p> <p>② トルコ大地震は冬期の中、就寝中の時間帯に発生し最悪の状況の様だが、当町としても我が事として捉えて火災時に備えるべきと考えるが対応状況について伺う。</p> <p>③ 東日本大震災から12年を迎え災害復興は大分進んでいるが、今後の被災者及び被災地への支援への考えを伺う。</p> <p>④ 当町を流れる1級4河川は順次改修されてきているが、北上川土橋地区の堤防の未整備個所の対応状況を伺う。</p> <p>⑤ 春になると昨年破損した西部開拓線に埋設されている農業用水管の使用が開始されるが、昨年の破損に対する対応状況及び今後の改善計画について管理者とどのように協議しているかを伺う。</p> <p>⑥ 最後に全国の保育所などを対象にした初の実地調査の結果、通園バスでの乗降時の子どもの安全管理に課題があった施設は19.5%に上るとの報道があったが、本町での状況及び対応状況について伺う。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 産業の活力を高めるまちづくりについて (答弁者) 町長</p> <p>ロシアのウクライナ侵攻後、世界的にますます厳しい食糧事情・モノ不足による物価の上昇・円安の中、町の基幹産業である農業、及び商工業について今後の対応を以下伺う。</p> <p>① 矢巾町農林業ビジョンの見直しが示されたが、具体的な今後の予定について伺う。</p> <p>② 持続可能な農業振興策として、農地利用の将来像を明確化する「地域計画」の策定が法定化され各地域で説明会が</p>

	<p>開催されているが、対応状況及び各地域の意見及び今後の推進計画を伺う。</p> <p>③ 水田利活用の直接支払い交付金の見直しとして、「畑地化促進事業」が進められるが、これは5年間だけの時限支援であり、鹿妻穴堰土地改良区の事業運営にも影響してくる事業と思われるが本町としてどう対応していくのか考えを伺う。</p> <p>④ 「森林環境譲与税」が人口の多い都市部に偏っている不満があり制度見直しがされ、今年から増額となり町有林の整備を行う様だが、分収造林に対する対応について伺う。</p> <p>⑤ 商工業の、企業と企業、企業と顧客・消費者を繋ぐ役割を担う「産業振興センター」を設置する様だが、増々厳しくなる「食料安全保障」の要である農業振興については「農業公社」の設置又は他の考えがあるのか伺う。</p> <p>⑥ 地域活性化の起爆剤として企業誘致を推進するが、トップセールスが一番効果あると思う中、町長交際費を減額しているが企業誘致に対する考えを伺う。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 安心と信頼が寄せられる行政経営について (答 弁 者) 町 長</p> <p>ファイブスター作戦の「共創と近助によるまちづくり」で触れている「人づくりこそまちづくりの根幹」は全くその通りであるが、町づくりサポーターの育成も大事だが、役場職員の専門性を高める「職員力」のレベルアップこそが、更に町の発展に大きく寄与するものと思われるので以下伺う。</p> <p>① 4月になると人事異動があるが、毎年約3分の1が移動している。技術職は一人前になるのに7、8年かかるこのことである。「人づくり」「まちづくり」「職員力」それぞれレベルアップするには経験を積む時間も必要である。また事業の継続が出来ていないことも見受けられるので、優秀な人材確保・町の発展の為にも、「人を育てる」・「事業の継続性」等の観点から「異動ありき」ではなく「人づ</p>

くりありき」「事業の継続性」を最大限考慮して頂きたい
が考えを伺う

- ② 全国で3割から8割くらいの比率で、非正規職員が働いているそうですが、身分も収入も不安定で全国的に問題となっている。当町も約180名の正職員と約同数の非正規職員（会計年度任用職員）の方が勤務している。

この不安定な非正規職員を「働き方改革」として、特に子育て世代で正職員希望の方にはチャンスを与え安心して働ける環境づくりにより、更に実力を発揮して頂いてはどうかと思うが考えを伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 10	令和5年 2月22日	午前・ 午後 11時30分
議席番号 4番	谷上知子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 宅地開発について (答弁者) 町長</p> <p>持ち家を購入する年代は、遠くない将来子ども進学を考慮し教育費を検討する年代でもあります。少子化の原因として子供の教育費の負担も一因に挙げられます。また若い世代のライフステージとして持ち家で子供とゆっくり過ごし、子育てをしたいと考えるのはごく自然です。令和4年度の内閣府の子育て支援の一環として若い世代への居住環境への支援も取り上げています。子育て世代を考慮した公営住宅や低額な宅地の販売が望まれます。</p> <p>本町は多くの人に住まいを提供し、固定資産税や人の交流を盛んにすることで経済効果を上げることが重要ではないでしょうか。矢巾の宅地や賃貸住宅は高水準で、矢巾に住みたいが戸建てを購入できないしアパート等も借りられない。子育て世代からよく聞く話題です。そこで以下伺います。</p> <p>① 戸建ても含め低額な住居の提供に向けた取り組みができないか伺います。</p> <p>② 世帯が高齢化しても安心して住み続けられる、コミュニティがある居住環境構築に向けた取り組みができないか伺います。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 子育て支援について (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>1990年の1.57(合計特殊出生率)ショックから始まった少子化対策子育て支援。人口を維持する目安としての合計特殊出生率2.06~2.07を下回った時からスタートしています。施策は1995年実施のエンゼルプラン5か年計画が初めての施策で、現在まで約30年たちます。子育ての環境改善は目に見えるほど進み、子育てを卒業した年代も現在の子育ての大変さに改めて考えさせられ地域社会の大きな関心事です。環境の整備は大切でこれからも継続していく必要がありますが、出生数はむしろ減る傾向にあります。少子化対策は人口対策でもあります。矢中町まちひとしごと創生人口ビジョン(令和2年版)の人口動向分析には2065年(令和47年)には町の人口が2万人になると推計しています。しかし国内には少子化対策・子育て支援が効果を上げている事例があります。「こども家庭庁」が新設され、その予算は4.8兆円です。</p> <p>本町での少子化対策、子育て支援について伺います。</p> <p>① 出生数の増減について伺います。 ② 数ある少子化対策、子育て支援の施策の中で、今後特に重点的に取り組む施策は何か、考えを伺います。 ③ 里親制度で育つ子供に対する支援策について伺います。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 中央1号線の県道昇格に向けた取り組みについて て (答 弁 者) 町 長</p> <p>中央1号線の交通量は増加し横断するためかなりの危険を伴います。特に矢中東小の交差点から高見橋付近は信号のない交差点もあり、車の左折や右折に時間がかかります。霧と吹雪が発生しやすい地形でもあります、朝夕の通勤時間</p>

帯だけでなく、日中も相当な通行量です。横断歩道は申請しているとのことで安心してはいますが、盛岡南バイパスとの平面交差も決まったことから、中央1号線の県道昇格に向けた取り組み状況について伺います。